

令和2年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
試験研究課題評価<中間評価>結果票

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
1：中止すべきである

番号	R2-中間-1						
課題名	県下をはじめ世界の人々に貢献するグルタチオン農業の確立を目指した基礎基盤研究						
課題の概要	グルタチオン施用によって実利的なバイオマス増産技術の確立のための計画を遂行し、かつその施用によってもたらされる品質の向上性の安定化によってブランド農産物の生産方法に関する研究開発を行う。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	2人	3人	1人	人	3.2
	〃(阻害要因)	1人	2人	2人	1人	人	3.5
	必要性	2人	4人	人	人	人	4.3
	有効性	2人	3人	1人	人	人	4.2
	効率性・妥当性	人	3人	2人	1人	人	3.3
	総合評価	2人	3人	1人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> グルタチオン農業の概念はユニークで岡山県から全国、世界へアピールできればと思って拝聴しました。グルタチオンの効果はどの植物に有効か、科や種による特異性について検討、さらには植物の成長やえぐみの低減のメカニズムが解明できれば、さらに研究の展開や産業への応用が期待できると思います。 この第5期計画年度中に、小さくとも成果をあげることを目標として、次のステップに進んでほしい。 現場でのグルタチオン農業の成果が確実に出ており高く評価できる。研究の経済性評価をしていくことも重要になってきていると思われる。 グルタチオンの施与効果を様々な植物で試験し、良い効果を得ている。今後は、費用対効果において更なる検討を行い、グルタチオン効果の科学的根拠を示してほしい。 今後とも県内農業者が減少していく中で、極めて優れた研究であり、大いに期待する。 グルタチオン施用でどのくらい費用がかさむのか、あるいは施肥量全体が減るのか、そういったコスト面を早く知りたい。 コロナ禍によって、阻害要因が発生しているのは、非常に残念です。 平成29年度からの研究実績が成果を上げつつある状況であると思う。得られたデータを有効活用で、グルタチオンの有用性が大きく期待され岡山県のブランド力をアップさせるものになるのではないかとと思われる。岡山県として、こうした基礎研究をしっかり支援してもらいたい。 						

令和2年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
試験研究課題評価<中間評価>結果票

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
1：中止すべきである

番号	R2-中間-2						
課題名	県産農作物の効率的育種技術の開発と新品種育成						
課題の概要	ブランド力強化に向けた効率的モモ育種システムの開発研究および青枯病強度抵抗性ナス科作物の開発研究を行う。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	3人	3人	人	人	3.5
	〃(阻害要因)	人	4人	1人	1人	人	3.5
	必要性	3人	3人	人	人	人	4.5
	有効性	3人	3人	人	人	人	4.5
	効率性・妥当性	人	5人	1人	人	人	3.8
	総合評価	1人	5人	人	人	人	4.2
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> 岡山県のブランド品種の開発に向けた研究で、興味深く拝聴しました。冬に収穫できる蟠桃のように、清水白桃で収穫時期の異なるものができれば戦略的に面白いと思いました。青枯病抵抗遺伝子の同定では、岡山で出荷が多い千両ナスに特徴的に抵抗遺伝子が存在するなど岡山ならではの結果が期待されます。 桃については、販売・マーケティングの重要度が高まっており、市場や消費者に対する認知度を上げる体制を県として取り組んでほしい。ナス青枯病については、ロードマップをより明確にしてはどうか。 県産ブランド農作物への育種への貢献が非常に大きいと評価できる。次にどのような形質をターゲットとするか(次のマーカーを見つける研究)についても実施していることが口頭では報告され、そのことも高く評価できるが、そのような事実をどう広報していくかについても検討が必要と思う。ナスの病気についての研究は、県産ナスについてもうまく表記できると良い。 岡山の特産であるモモの育種に着目した研究で、マーカーの開発などで良い成果が得られている。また青枯病に関する研究も進展している。新しい形質を有するモモの新品種を期待している。 モモは、岡山県の特産であり、明治以降、先人が年月をかけて品種改良を重ねて来たものであり、常に次世代品質を研究していくことは極めて重要と考える。 ナスの青枯病抵抗性品種の開発研究も、本県にとって重要で、早急な育種育成を望む。 更なる探究により、岡山県の特産品として「ナス」を全面にアピールできるように期待します。また、全国に先駆け白桃をブランドとしている岡山県の農業の力を支えているのが、遺伝子研究であると思いますので、「基礎」を確たるものにする研究を期待します。 						

令和2年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
試験研究課題評価<中間評価>結果票

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
1：中止すべきである

番号	R2-中間-3						
課題名	革新的植物活力向上技術の開発研究						
課題の概要	植物自身が備えている防御システムを活性化して病害を防除する環境低負荷型の病害防除法として、病害抵抗性誘導資材及び技術の開発、植物の活力を高める資材であるバイオスティミュラントの開発及び、最新のゲノムツールを利用した病害抵抗性作物の育種を行う。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	1人	1人	3人	1人	人	3.3
	〃(阻害要因)	人	3人	1人	2人	人	3.2
	必要性	3人	2人	1人	人	人	4.3
	有効性	1人	4人	1人	人	人	4.0
	効率性・妥当性	人	4人	1人	1人	人	3.5
	総合評価	3人	3人	人	人	人	4.5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲットウの抗ウイルス効果については、植物のみならずヒトに対しても効果が示唆されている点において今後の実用化が期待されます。抗ウイルス効果もですが、バイオスティミュラントの活力効果についてもメカニズムが解明できれば、より応用化が期待できると思います。 ・農水省も含めて行政サイドの認知度が低く、今後使用できる農薬が大幅に減少する状況もあり、岡山県農業がますます厳しい状況になることが予測される。農林水産部全体の課題として、取り上げるように我々からも働きかけを行いたい。 ・今後も、総合的な減農薬栽培への取り組みを積極的に進めてもらうことを期待する。 ・いくつかの製品が開発されて評価できるが、科学的な根拠もしっかり示してほしい。 ・病害抵抗性作物の育種は、常に必要であり、大いに期待している。 ・人員・研究費の不足が、この研究遂行の課題になっているようで、早急な解決を望む。 ・農業人口の減少に伴い、効率が求められる社会状況に眼目を置き、AIを利用した農業は今後、日本の農業を大きく変えるかえるものとなります。更なる、発展を期待します。 						

令和2年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
試験研究課題評価<中間評価>結果票

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
1：中止すべきである

番号	R2-中間-4						
課題名	植物が持つ潜在的能力の利活用による新品種育成と最先端栽培技術の研究						
課題の概要	植物が本来持っているが現行栽培品種では失われている形質（潜在能力）を利活用し、生産性の向上等に寄与する新品種の育成をめざす。また、従来長時間を必要とする品種改良にかかる時間を短縮するための技術開発も進める。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	1人	人	4人	1人	人	3.2
	//（阻害要因）	人	2人	3人	1人	人	3.2
	必要性	1人	1人	4人	人	人	3.5
	有効性	人	3人	3人	人	人	3.5
	効率性・妥当性	1人	2人	2人	1人	人	3.5
	総合評価	人	4人	1人	1人	人	3.5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・直接質疑ができなかったのが残念ですが、研究員がご定年で今後の研究の継続が心配です。 ・今後の継続を前提とするのであれば、外部研究機関への移譲も含めて検討してはどうか。 ・定年を迎えられる本課題担当研究者の成果をどう継続するかを研究所全体として議論していただきたい。今後活かせる研究データをまとめ、現スタッフでの有効利用、新年度に向けての検討を進めていただきたい。 ・トマトの日長応答性を詳しく解析し、一定の成果を上げている。成果が実用化されることを期待している。 ・生産性向上に寄与する新品種育成の研究価値は高いと思うが、コスト面でどうかなどの検証が必要である。 						

令和2年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
試験研究課題評価＜中間評価＞結果票

総合評価凡例 5：優先的に継続することが適当 4：継続することが適当
3：計画変更して継続することが適当 2：継続の必要性が低い
1：中止すべきである

番 号	R2-中間-5						
課題名	農産物の機能性探索研究						
課題の概要	県特産農産物（黄ニラ）の機能性研究（抗酸化増強・歯周病予防作用機序の解明及び活性分子の同定）を行う。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成可能性	人	4人	2人	人	人	3.7
	〃（阻害要因）	人	4人	2人	人	人	3.7
	必要性	3人	3人	人	人	人	4.5
	有効性	3人	3人	人	人	人	4.5
	効率性・妥当性	人	6人	人	人	人	4.0
	総合評価	3人	3人	人	人	人	4.5
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・黄ニラの活性成分の同定が急がれると思います。特に青ニラにはなく、黄ニラに特徴的であれば、なおインパクトが大きいと思います。最終的にはコスト面でもハードルが高い臨床試験による効果が必要になりますが、何とかクリアして岡山県産の機能性食品を目指してほしいと思います。 ・岡山県でなければ出来ないテーマと思われ、民間企業との共同研究も含めて今後の進め方について、検討してほしい。 ・岡山県産農林水産物の機能性研究をぜひ続けてもらい、広報も充実させてください。酵素を利用する県産農産物の付加価値向上にも取り組んでもらいたい。 ・多くの機関と共同研究を行い、成果を上げている。今後製品開発に結び付けるように展開してほしい。 ・米飯にしても、黄ニラにしても、この成果が消費拡大につながるので、早急な研究展開を期待している。 ・ブランド力をどのように持たせていくかが大きな課題であると思います。全国のシェアNo.1の黄ニラが機能性食品としてブランド力をアップできるようなデータの収集・構築を期待します。 						